

調査・研究報告書の要約

書名	21世紀の機械産業の高度化・知識集約化の進め方に関する研究 ～ 21世紀における外交・経済基本戦略～				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会 KPMGビジネスアシュアランス株式会社				
発行年月	平成17年3月	頁数	100頁	判型	A4

[目次]

はじめに

本調査の目的

分析枠組と報告書の構成

【総括】 日本外交の新機軸を求めて

- ・ 前提条件の見直し： 環境変化と世界潮流の検証
 - アメリカのフィルターを通した世界観の見直し（世界の多元化・多極化と、国際協調・国際法理の重要性の増大）
 - アジア観の見直し：アジアダイナミズムという新しい現実
市場・競争至上主義的グローバリズムの見直し
- ・ 日本の外交指針： 20世紀モデルからの脱却
 - 外交指針
 - 真の「親米」に向って
 - 「入亜」に向って
- ・ 試論・あるべき外交戦略： 新たな目標としての価値体系
- ・ 試論・あるべき外交戦略： 具体的行動計画
 - 「平和・安全・人権」におけるイニシアチブ
 - 「環境」におけるイニシアチブ
 - 「安定的成長」におけるイニシアチブ

第1章 我が国をとりまく社会潮流

1.1 国際環境： 日本をとりまく環境変化

- 1.1.1 911 で露呈した市場主導のグローバリズムの限界
- 1.1.2 「新しい戦争」の時代
- 1.1.3 「力による平和」と国際法理・国際協調
- 1.1.4 人間の安全保障
- 1.1.5 国連再編
- 1.1.6 情報通信技術の発達
- 1.1.7 「アジア・ダイナミズム」
- 1.2 国内環境： 日本社会の変容
 - 1.2.1 人口構造の成熟化
 - 1.2.2 「希望格差社会」
 - 1.2.3 閉ざされたナショナリズムの危険
 - 1.2.4 新たな労働の担い手： 女性、高齢者、外国人
 - 1.2.5 「国力」の源泉としての人材育成
 - 1.2.6 地球環境問題とエネルギー確保とのバランス
 - 1.2.7 安全保障と国際協力
 - 1.2.8 先端技術とものづくり振興
 - 1.2.9 食糧の確保と農業

第2章 基本概念の検討

- 2.1 概念整理
- 2.2 我が国の外交政策の現況

第3章 論点整理： 我が国外交・経済の今後のあり方

- 3.1 日本が置かれる状況の再検証
- 3.2 日本外交の新機軸の提唱
- 3.3 試論・あるべき外交戦略： 戦略目標
- 3.4 試論・あるべき外交戦略： 行動計画
 - 3.4.1 「平和・安全・人権」におけるイニシアチブ
 - 3.4.2 「環境」におけるイニシアチブ
 - 3.4.3 「安定的成長」におけるイニシアチブ
- 3.5 むすびにかえて

[要約]

本調査は、日本外交の新機軸を試論として提案することを目的とし、主に文献レビューを通じて検討を進めた。また将来のビジョン設計および外交・各種政策上のインプリケーションの導出に関しては、検討会における有識者の方々によるご示唆、検討会にオブザーバー参加して頂いた経済産業省のスタッフの方々との意見交換を通じて、議論を整理した。

本報告書は、以下の構成によって、議論が進められる。

まず冒頭の「【総括】日本外交の新基軸を求めて」では、ポジションペーパーとしての本報告書によって立つ認識、哲学、今後の方向性の骨子を議論することで、本報告書における「主張の全容」を鳥瞰的に提示する。

第1章は、「前提条件の見直し： 環境変化と社会潮流」の分析である。ここでの作業は、ビジョン検討の導入として、今後のグローバル社会において日本が直面する状況を体系的に分析、把握しようとするものである。

第1章における分析は、以下の2点に分けて構成される。

まず1.1「国際環境：日本をとりまく環境変化」では、マクロの国際関係の視点から、将来の日本をとりまく状況を認識する。1.2「国内環境：日本社会の変容」では、国内の社会潮流や外交政策に関連する国内問題に焦点を当てて、その現状と課題を整理する。そのまとめとして、我が国外交にとってのインプリケーションを議論し、第3章への導入とする。

第2章は、「基本的概念の整理」である。ここでは、「国益」や「国家目標」といった外交政策の検討において基本的な概念について、その定義や語法について整理・確認を行なう。それらの概念がどのように現状の外交方針に位置づけられているかを確認する。

第3章は、「試論：外交・経済基本戦略」である。ここでは、前章までの議論の要点を踏まえて、今後、日本がおかれる状況を再認識した上で、あるべき外交指針、戦略目標と具体策に関し、今後の政策論議に向けたポジション・ペーパーとして論点を整理し、本報告書のむすびとする。

なお、序章において鳥瞰的に示される本報告書による主張の要点は、以下のとおりである。

・ 前提条件の見直し： 環境変化と世界潮流の検証

山積する内外の諸課題に対処し、我が国の針路を打ち立てていくには、これまで依拠してきたような前提を見直し、その上で新たに依拠すべき座標軸を定める必要がある。具体的には、アメリカのフィルターを通した世界観を見直して、世界の多極化・多元化と国際協調と国際法理の重要性を理解すべき点、アジア・ダイナミズムという新しい現実を直視して、旧来のアジア観を見直すべき点、市場および競争を市場とするグローバリズムの限界と負の側面を認識すべき点、の3点にわたって認識を新たにする必要がある。

・日本の外交指針： 20世紀モデルからの脱却

上記の認識を踏まえて、21世紀における日本の外交指針として、真の「親米」とアジア諸国との信頼関係の構築をめざす「親米入亜」を提唱する。

・試論・あるべき外交戦略： 新たな目標としての価値体系

その上で、「平和・安全・人権」、「環境」、「安定的成長」といった諸価値を今後追求していくべき戦略目標として位置づける。

・試論・あるべき外交戦略： 具体的行動計画

むすびとして、で確認した価値の体系に沿って、具体的な外交施策・イニシアチブを今後の政策論のための試論として提起する。

以上



この調査研究は、競争の補助金を受けて実施したものです。